



おかしみを生む言語表現(二〇一三年度卒業論文要旨集)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2014-11-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 米山, 慧 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00007459

おかしみを生む言語表現

日本語学研究室　〇五〇六　米山　　慧

本研究は、漫才におけるツッコミ表現の特徴を分析し、その分析結果に基づいて、ツッコミ表現が単独でおかしみを生む際の仕組みについて明らかにすることを目的とした。

分析にあたって、収集した漫才を台本形式で文字化した。その中から抽出したツッコミ表現を、従来の研究を参考に「否定型」「オウム返し型」「沈黙型」「訂正型」「意味指摘型」「比喻型」「否定的感想型」「自己指摘型」の八つの型に分類し、各ツッコミ表現の特徴を分析した。

分析の結果、八類型のうち「意味指摘型」「比喻型」「否定的感想型」「自己指摘型」の四つの型において、従来ツッコミ表現の働きとして指摘されていた「ボケの補強的な働き」のほか、「単独で新たなおかしみを生みだす働き」が確認できた。この働きを持つツッコミ表現の仕組みは、ボケ表現の矛盾を指摘するというツッコミの役割に対する観客の期待や予想と、実際のツッコミ表現との「ズレ」によっておかしみが生じるというものであった。

漫才を資料としたこれまでのおかしみ研究の多くは、ボケと観客との間のズレによって生じるおかしみを分析対象としていた。しかし、今回の研究により、これまでほとんど論じられていなかった、ツッコミという言葉表現が単独で持つ、おかしみを生む仕組みについて明らかにすることができた。